

富士河口湖町立 教育センターだより

No.14

令和2年10月30日

文責 渡辺 富美夫



地域の発展に尽くした先人に学ぶ「河口湖新倉掘抜」学習

手掘りトンネルとして日本一の長さであり、地域の大切な史跡である「河口湖新倉掘抜」を扱った学習を4年生で行っています。各校で取り組んでいたものをもとに、町立教育センター富士山学習研究会が平成27～29年度に共通教材「ほりぬきがひらいた未来」(全13時間)を作成し、それに基づいた授業を行なっています。それを受けて平成29年度には見学活動の流れを作成し、翌年から体験学習プログラムとして実施しています。見学の大切なポイントは「願い」です。どのような願いで「河口湖新倉掘抜」が掘られたのか、また、それ以外のトンネルもどのような願い(理由)で作られたのか、そして、願い実現のためにどのような努力や苦労があったのか、その願いは実現したのかなど見学しながら考えていきます。見学のメインは「河口湖新倉掘抜史跡館」です。掘抜作業を解説した資料や当時の工事道具の展示のほか、壁面いっぱいに作業風景を再現した断面ジオラマなどがあり、実際のトンネルも約60m奥まで見学できます。史跡館では、古屋妙子さんが、展示してあるものをもとにととてもわかりやすく説明していただきます。



見学行程

1. 記念碑「新倉掘抜記念碑」
船津浜駐車場
2. 河口湖新倉掘抜史跡館
3. 県庁隧道取水口
4. 東電放水路取水口
5. 河口湖新倉掘抜出口
6. 東電放水路出口
7. 新倉河口湖トンネル



古屋妙子さん

防災学習

「正しく知り、正しく恐れよう～身近な防災のこと」

1 時間目

1. 自然災害について知っていることを発表し、分類する
2. どんな時に起こるか考える
3. 自分達の住んでいる場所の地形の特徴を考え、起こる可能性のある現象について考える
4. 住んでいる地域で起こった災害を取り上げ、地形や自然現象を手掛かりに、なぜかを学ぶ
5. 災害から暮らしを守るためにとった方法について知る

10月23日に、西浜小学校において防災に関する授業が行われました。2時間に分けて行われ、その主な流れは左記の通りです。授業者は富士山科学研究所の藤巻桂吾、久保智弘、古屋和仁先生です。今回の授業での一番のポイントは、「身近」ということです。富士北麓の人々は様々な地域に住んでおり、地域の地形によって災害の種類や被害は異なります。地域災害が起こる要因と種類について正しく知ることで、災害が起こる前に、自分の命や財産を守るための行動をとろうとする態度を養うことができると考え、授業は作られています。西浜小では、1966年に西湖、根場地区で発生した足和田災害を取り上げました。自分のこととしてとらえられるように豊富な写真や映像を、さらに自分たちの地域の様子を知るために学校周辺の様子を映したドローン映像(ケーブルTV河口湖提供)も使用しました。



火山灰吹き上げ実験

2 時間目

1. 富士山が噴火したときどんなことが起こるか予想する
2. 噴火の様子を映像や実験で確かめる
3. 「エリア」と「ライン」について知る
4. 自分達の住む地域のエリアとラインについて確認する
5. 噴火したときにとる行動を火口の位置とその時の自分の場所から判断することを確認する

富士山噴火のときに起こる現象の特徴については、立体模型を用いた溶岩流を流す実験と薄型水槽を使った火山灰を噴き上げる実験で学びました。実験を通して、「どこで噴火し、どんな噴火をし、その時、自分はどこにいるのか」の情報を得ることは、適切な避難行動をとるために必要なことであることを学ぶことができました。



溶岩流流出実験

適切な避難行動をとるために必要なことであることを学ぶことができました。